

紀要創刊によせて

学 長 神 谷 み ゑ 子

国際的な時代の要請にこたえて、大理想のもと昭和38年家政科1学科で開学いたしました。其後順調に初等教育科、英文科の学科増をいたし、今年はその5周年にあたります。あたかも明治百年にちなんで、菊花かおる11月、文化の日を中心に5周年式典を開催し、研究紀要の記念創刊におよんだことは、まことに感激にたえない。既に研究熱心な教授各位により開学早々発刊の機を度々むかえつつも、記念創刊号とすべく、つい発行がおくれましたが教授各位におかれては、主任教授の指揮のもと不眠不休の研究観察が続けられたり、長い海外での研究をもとに更に学内研究でまとめられたもの、多忙な中を資料を求めて東奔西走されて完成されたもの等々、尊い努力が払われたのである。更に今後は規則的に、続刊をいたし、教授各位のおう盛な研究意欲にこたえとともに、貴重な研究を通じての御交誼を御願い致したい。

おわりに内々ですが、研究発表された各位に深い謝意を表します。

序

学 監 高 橋 悌 藏

本学は今年四月を以て創立満五周年を迎えた次第であるが其間神谷理事長及学長の女子教育に対する献身的情熱と各方面よりの温かき理解と援助、更らに本学教職員の真摯なる協力の結果幾多の困難を克服して年を逐うて校運昂揚し茲に榮ある五周年を迎うるに至たことは関係者一同衷心感謝と感慨に堪えないものがある。

思うに我が国における女子短期大学においては共通の多くの困難なる問題を包蔵するが教育においても多くの矛盾と困難が存在している。即ち二ヶ年の短期間に比較的高度の専門教科をその学習の順序を整える余裕なくして圧縮教授するの止むなき実情下にあるため学生は往々にして知識技能の消化吸收のいとまなくして卒えることになる。本学においては特にこの点に留意し教育効果を挙ぐるため教授上の能率向上に意を注ぐと共に自発的研究心の養成は教師と学生の共同的研究態度に因ることを自覚し創設時の諸条件を克服して行われた研究の一部をまとめて創立五周年記念事業の一として本学紀要創刊号を刊行した次第である。幸に此のいささかなる研究結果が関係諸賢の閲続の榮に浴し関係学界にいささかなりとも寄与することが出来れば執筆者はもとより本学としても記念出版の目的に添い得てきん快且つ光榮これに過ぎるものはない。

茲に本学紀要創刊号の刊行に当り敢て所感を叙して序にかえる次第である。